

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

平成29年6月6日

京都府知事 様



提出者

住 所 京都府木津川市木津南垣外110-9

氏 名 木津川市 木津川市長 河井 規子

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0774-72-0501

(担当部署)下水道課 TEL 0774-75-1252

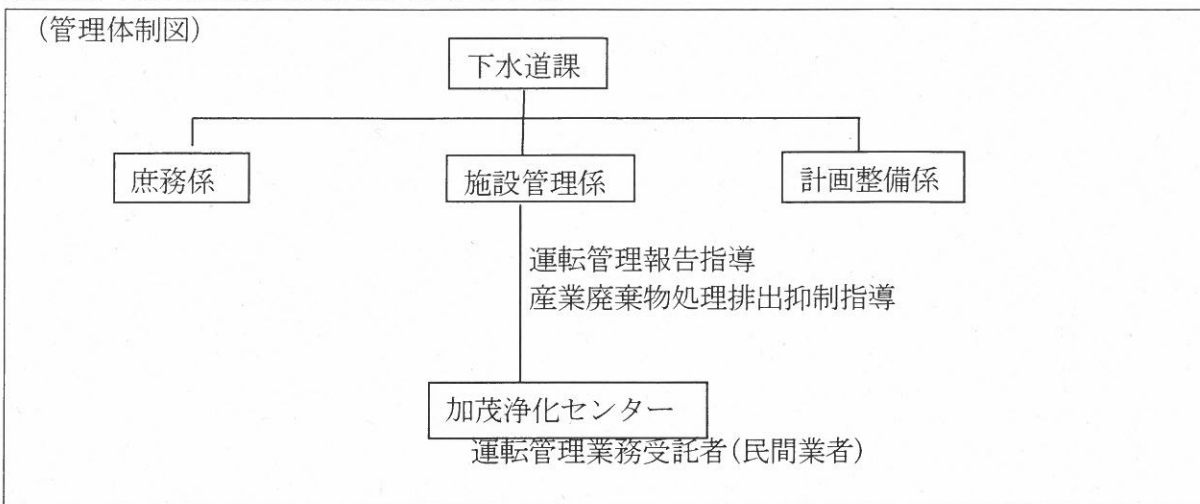
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	加茂浄化センター
事業場の所在地	京都府木津川市加茂町里北古田1-3
計画期間	平成29年4月1日 から 平成30年3月31日 まで

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	下水道処理施設維持管理業 (日本標準産業分類番号3631)
②事業の規模	下水道業 年間下水処理量 115万立方メートル
③従業員数	8人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<pre> graph LR In[流入] --> S1[沈澱池] S1 -- ⑤ --> S2[浮遊物除去槽] S2 -- ⑤ --> S3[最終沈澱池] S3 --> Out[河川放流] S1 -- 余剰汚泥 --> S4[汚泥濃縮槽(重力式)] S4 --> S5[濃縮汚泥貯留槽] S5 --> S6[汚泥脱水機] S6 --> Out2[場外搬出] S2 -.-> S7[急速砂ろ過設備(将来)] S7 -.-> S8[塩素滅菌池] S8 -.-> S9[コンポスト設備[将来]] S9 -.-> S10[緑農地還元[将来]] </pre>

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（平成28年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚 泥	
	排 出 量	11,898 t	t
	(これまでに実施した取組) 水処理設備の適正運転に努め、汚泥転化率を改善する。 汚泥濃縮槽を増設し(平成21年度)、汚泥濃度を高め汚泥発生量を削減する。 脱水機運転の効率を上げ、自ら中間処理により減量した量を改善しようとした。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚 泥	
	排 出 量	11,300 t	t
	(今後実施する予定の取組) 水処理設備の適正運転に努め、汚泥転化率を改善する。 汚泥濃縮時間を長めに設定し、汚泥濃度を高める。 汚泥脱水機の適正運転に努め、排出汚泥量を削減する。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚 泥	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	—— t	t
	(今後実施する予定の取組) 全体計画では将来的な計画として汚泥のコンポスト化計画はあるが現状では実施の可能性は少ない。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（平成28年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚 泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	—— t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	10,989 t	t
(これまでに実施した取組) 水処理設備の適正運転に努め、汚泥転化率を改善する。 汚泥濃縮設備を増設し(平成21年度)、汚泥濃度を高め汚泥発生量を削減する。 脱水機の適正運転により中間処理による減量改善。			
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚 泥	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	—— t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	10,400 t	t
(今後実施する予定の取組) 水処理設備の適正運転に努め、汚泥転化率を改善し汚泥発生量を抑制する。 汚泥濃縮時間を長めに設定し、汚泥濃度を高める。 汚泥脱水機の適正運転に努め、搬出汚泥量を削減する。			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（平成28年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥(脱水ケーキ)	
	全処理委託量	909 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	909 t	t
	再生利用業者への処理委託量	—— t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	—— t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	—— t	t
	(これまでに実施した取組) 脱水機の適正運転に努め、脱水汚泥の含水率を下げ処理量の削減に努めた。 脱水用凝集剤を実機テストで試し含水率の改善に努めた。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥(脱水ケーキ)	
	全処理委託量	900 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	900 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	—— t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	—— t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	—— t	t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>汚泥発生量を抑制し、中間処理する汚泥量を削減することで、全処理する脱水ケーキ量の削減に努める。</p> <p>脱水機の適正運転に努め、脱水ケーキの含水率を低下させることで、全処理委託量の削減に努める。</p> <p>脱水用凝集剤と汚泥との適正化をよりよくする。</p>		
※事務処理欄			